

第3回 南砺市総合計画策定審議会

議 事 概 要

令和元年 12 月 20 日（金） 13:30～16:00

南砺市福野庁舎 2 階講堂

次 第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - ・南砺まちづくりビジョン（第2次南砺市総合計画）（素案）について
4. 意見交換
5. 今後の予定について
6. 閉会

主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

【開会、中村会長あいさつ】

第3回審議会の開催にあたり、これまでの審議会に参加いただき感謝する。計画の内容について、これまで様々な立場からご意見をいただき、南砺市の目指すべき姿が少しずつ見えてきた。今回も活発な意見をいただきたい。

【市長あいさつ】

年末もあと 10 日ほどで今年も終わる。ご多忙中の出席と、これまでに色々ご支援いただいたことに感謝する。6月の第1回審議会から数えて今回で3回目であり、これまでに将来像について様々な意見をいただき、大変すばらしい将来像をご提案いただいたと考えている。今回提示させていただく資料は、将来像と重点施策を盛り込んでいるとともに、現在の総合戦略の総括についてもまとめさせていただいている。

これまでの総合計画や総合戦略の成果については、人口問題は厳しい状況ではあるものの、南砺市は「住みたい田舎ランキング」は全国でも毎年トップクラス、北陸では1位をとっており、メディアにも取り上げられるようになった。

井波のまちづくりについて、ベッドアンドクラフトなど様々なプランが提案されてきており、海外メディアにも紹介されている。また、利賀でまれびとの家というゲストハウスをつくった建築家が、全国で2019年の10人の建築家に選ばれており、シアターオリンピックスで現地活動されていた鈴木忠志さんがパリやロシアなど、世界的な賞を受

賞された。いろいろなメディアにとりあげられ注目されつつある。また、若者に注目されるようになったことも実感しており、これからさらに発信し、より大きな南砺の移住・定住につながるように、次の計画にしっかりとつなげていきたい。SDGs 未来都市として、企業からも前向きな提案もいただいている。また、国から第二期の総合戦略案が示され、止まらない東京の一極集中の是正に向け、関係人口の創出に非常に力を入れている。南砺市としてもこれまで、「応援市民」という形で進めてきている。また、ここにきてジェンダーギャップのような、多様性を認める社会についても注目されてきている。さらに、子供への教育などについても力を入れていきたい。

【南砺まちづくりビジョンについて】

(第1章～第3章の説明)

- ：説明された資料は、これまでに議論してきた内容ではあるが、何か意見はあるか。
- ：3つあったキャッチフレーズについては、前回の審議会で意見がいろいろあったと記憶している。「誰一人取り残さない」はSDGsのキャッチフレーズであり良いと思うが、「誰からも選ばれるまち」については、南砺市を好きになってもらうためには、我々の南砺市が誇りにあふれていなければならない。このキャッチフレーズは後ろ向きなのではないか。自分たちが頑張っていくことが必要であり、その結果選んでもらえるようになることが必要なのではないか。
- ：現在のキャッチフレーズは、SDGsのポリシーでもある「誰一人取り残されない」の内容が濃く出ているのではないか。一番大事なものは「誰一人取り残されない」であり、それに続く内容となっていると認識している。
- ：目指すべきまちの姿として4つあるが、その中で、「未来に希望がもてるまち」で、「南砺で育ちたいと思える」は、子供の目線ではない。大人の目線ならば「南砺で育てたい」ではないのか。また、人材流出対策は「心豊かな暮らしができるまち」なのか。
- ：最初の2頁で、防災など、必ず実施しなければならないものは各種計画で扱うとの説明はあったが、将来像に防災のことが入っていてもよいのではないか。体系の中で、自然災害のことも扱うべきではないか。また、表現方法として、「いかなければならない」は「いかなければならない」とすべきではないか。また、「変わりつつある中」は漢字ではない方がよいのではないか。また、繰り返されている表現も幾つかある。文章をチェックした方がよい。
- ：ビジョンがあってプランがあって各種計画があるとのことだが、SDGsの実施計画はここに記載しなくてもよいのか。タイミングはほぼ同時期なので、記載すべきではないか。内容が確定次第、後日追記するつもりなのか。
また、P5の文章は、キャッチフレーズの背景が書いてあるようだが、「このような社会の…」のあとの「これからの10年間は…」については“誰からも選ばれるまち”に関する記載が少ない。現在の表記では、「一流の田舎」がキャッチフレーズの肝となるのではないか。

- ：P6 について、結婚に関する希望や子供を持ちたいと思う内容については、1（未来に希望がもてるまち）ではなく3（心豊かな暮らしができるまち）に入れるべきではないか。
- ：将来像についての違和感、目指すべきまちの姿についてのご意見、防災の視点を追加して欲しいとの意見、SDGs の実施計画について本計画に位置づけなくてよいのかとの意見、将来像の文章の漢字の使い方についての意見をいただいた。将来像における文章の内容については、これから事務局で検討いただきたいと考えるが、キャッチフレーズについては、事務局はどう考えるのか。変更が難しいのならば、本文で整合・調整を図るのか。
- ：「誰からも選ばれるまち」はしっくりきていないが、対案が思いつかない。その他、まちづくりの項目について、「行政のみで完結するものではなく」は市民にぶつけられているようだ、「行政のみで成し遂げられるものではなく」としては。また、4つの目指すべきまちの姿については、例えば人づくりのところで「南砺で子育てをしたい」とあるなど、主語がいくつ存在する表現となっている。未来に希望を持つとしても、人生のいろいろなステージがあると思うので、若者のみに焦点をあてた表現に違和感を覚えている。
- ：P5, 6 についての違和感については、事務局で改めて再考させていただければと思う。キャッチフレーズについては、外から目線だけでなく、市民からも選んでもらいたいという市民目線で選ぶという意味を含めてこのような表現とさせていただいたが、意図が伝わっていないのであれば、再考させていただこうとも思う。
- ：てにおはの表現については精査いただければと思うが、キャッチフレーズについては、文章の最後に表現されているようなスタイルが良いと思う。また、P6 については、P22 の詳細内容の説明をいただかないと判断がつかないのではないかな。

（第4章～第5章の説明）

- ：P14 で、「雇用の確保と就業環境の充実」の改善率が57%あるのかかわらず、満足度が低い理由は。
- ：改善率については、行政側で目標値を設定した指標である。今回、市民からの意見の結果と比較できるように併記している。
- ：医療については、充実していると思う。これまでの取り組みが適切だったかも検討していってもらいたい。
- ：市民との実感と乖離があるのならば、その検証も必要である。
- ：進捗率・改善率は数値化されたものであるが、P16 について、重要度も満足度も低い項目はどういう意味か。根拠が必要である。改善されているにもかかわらず満足されていないのならば、認知されていないだけではないのか。公表は慎重に扱うべきである。
- ：算出方法については、P16 の下に記載がある。P15 は相対的な位置づけと考えてもらいたい。市民の意見については、例えば農業については印象などで動く可能性があり、

今後は定性的・統計的な資料と意識調査の両方で比較していきたい。

- ：P16、60代、70代以上については「安心して子どものを産めるようにする」の割合が高いが、40、50代は低いようである。この結果についてどう考えているのか。
- ：60代、70代は過去と比べて、子どもの少なさを実感されているのではないか。
- ：P10の小規模多機能自治について、「自治振興会」の表現がまだ残っているが、地域づくり協議会とするべきではないか。
- ：修正する。
- ：P15の表は出すのか。農業従事者から重要ではないと思われるのではないか。P16のような表にすべきではないか。アンケートを記載した人は知らなかっただけではないか。出さない方がよいのではないか。
- ：4分割の分析は、私はクリアになって良いと思うが、誤解が生まれてはよくない。使い方に工夫が必要かもしれない。クリアにすることも大事だと思うので、間違いないようにしてほしい。
- ：P14の改善率については、大半がオレンジで改善されていないようだが、PDCAサイクルで改善すべきことのはず。時代が必要とされていながらなのか、サイクルのやり方が総合計画に合わないのか。柔軟な改善がされないように感じてしまう。上手く改善につなげていってほしい。
- ：目標値を設定し、毎年度の目標を検証しているのだが、目標値の設定が高すぎたものもあると考えられる。今後検証していきたい。
- ：時代の流れが激しく変わっていている昨今であり、国の政策が変わっていくものもあるのではないか。柔軟に進めていってほしい。
- ：P8の人口ビジョンの表を出すのであれば、2030年が本計画の目標値であり、SDGsも2030年であるので、この年をどう目指していくのかを明記すべきである。

(第6章の説明)

- ：今回の計画はビジョンとプランと各種計画であるため、大まかな内容となっているが、地域の課題に取り組むためには、現在の4つの「目指すべきまちの姿」ではまちが元気にならないのではないか。団塊の世代は近々75歳になってしまうため、次の世代の人材育成が必要と考えているが、ここで言う「人づくり」は「子づくり」のことではないのか。そのような視点が全く入っていないのではないか。総合計画を読んだ人がやる気が出るような内容とすべきではないか。SDGsの全国10都市のモデルとなったのは、医療システムの構築や、環境にやさしい、森を守ることで海が綺麗になる、小規模多機能自治などが評価されたはずであるが、そのような内容が一つも書いていないのではないか。P23の表現は良いが、それ以降になると急に分からなくなる。
- ：目指すべきまちの姿の4つの項目については、これからまちが目指す根本となるものである。多様性については、高齢者の健康のことについて記載があるが、視点がはっきりしているものとそうでないものがある。

- ：人づくりについて、女性は子どもを産むことだけのように読める。まず子育てしやすい社会の充実があるべきではないか。
- ：時系列ではなく、政策の重要性順で記載してもよいのではないか。
- ：P5,6で言い忘れたのだが、抜け落ちているものとして、「誰からも選ばれるまち」は誰が主体なのかが分からない。人づくりについて、結婚して子供を産みなさい、と特化して、あまりにも露骨に出ているように感じる。これから高齢者となっていく人がどのように社会参画していくことが重要なのではないか。その部分が抜け落ちているのではないか。高齢者はサービスの提供の対象としか読めない。多様性についても、性別、国籍などの区分分けをした趣旨も分かるが、「誰からも」とうたうのならば、そのような表現とすべきではないか。多様性は区分を設けると既に多様性ではない。ひとりひとりが主役というのが実感として表れるような内容が記載されていないのではないか。4つに分けたことは良いが、分け方に配慮すべきである。生き方、働き方があり、その先に結婚があるのではないか。
- ：多様性の意味付けは難しいが、寛容な社会が大事なのではないか。ひとりひとりを認めていくことによって、南砺で暮らしていこうと思ってもらえるようになる、ということでは。「人づくり」はもう少し広い視点で見直した方がよいのではないか。多様性についても、メッセージが伝わる形に。「人づくり」「まちづくり」などのカテゴリーについては、あくまでも「未来に希望が持てるまち」であるのだから、まずこの言葉がトップに来るような表現とすべきではないか。
- ：人づくりは心と体からだと思う。自立心を育てる、思いやる心を育てる、食育の言葉も記載してもらいたい。
- ：今年には多くの災害があった一方で、南砺市ではそれほどでもなかったが、基本項目の中に自然災害の記載がないのは本当にそれでよいのか。何でも入れる訳ではないというのはわかるが。また、「多様性」については、「安心（感）」とすべきではないか。
- ：前回の委員会に出ていた資料と比較すると、「ワークライフバランス」や「仕事や生活の充実感を感じられる社会」の表現が無くなっているが、なぜか。
- ：ワークライフバランスなどについては、「多様な幸せを実感できるまち」、「心豊かな暮らしができるまち」に振り分けたためである。
- ：「多様性」は「誰一人取り残さない」にリンクする表現でもあるので、どこかに残す必要もある。
- ：体系図について、前回から様変わりしているが、前の方がよかったのではないか。短縮しすぎているのではないか。人づくりについて、後継者についてはまちづくりに入っている。小規模多機能自治については消えている。前回も安全・安心については指摘があったが省略しすぎたのではないか。目指すべきまちの姿については、P5の文章から抜粋されるべきではないのか。
- ：P26のKPIについて、全国学力調査結果や県以上のレベルの入賞者数などは、目標として適切か。再考いただきたい。
- ：教育の目標は難しいところもあろうかと思うが、再考願いたい。

【今後の予定について】

- 中村会長：本日、1章から7章までご意見いただいたが、今回は最後の審議会として議論いただいたが、全般にわたって様々な意見をいただいた。施策の体系図についても、内容よりも構成についてのご意見をいただいている。事務局として、無理でなければ、再度審議会を開催させていただき、今回の意見を踏まえたものをご提示いただけないか。
- 事務局：大変たくさん貴重な意見をいただいた。事務局としても、もう1度審議会を開催させていただきたい。日程は会長・副会長の都合を考慮していく。3月議会に上程したいため、1月の開催を基本としてスケジュール調整をさせていただきたい。
- 川合副会長：将来像について、文章の後半がテーマとリンクすべきである。都会と田舎の話もあり、「田舎」というキーワードは入れ込むべきではないか。
- 田中市長：みなさんのご意見をいただき納得することばかりである。総合戦略について、男性側が女性の子育てと出産について理解することが重要である。また、キャッチフレーズはSDGsと一流の田舎を入れ込むというご意見をいただいた中、本文を読むと分かるかもしれないが、「選ばれるまち」は行政目線であるかもしれないが、近年多く取り入れられているキーワードではある。今後、書き方も含めて検討させていただく。ビジョンは市民が取り組んでいく、心を1つにする計画と考えているため、再考し、みなさんにお示しさせていただきたい。
- 事務局：今後の流れとして、1月中に第4回審議会を開催させていただきたい。

以上

